

# アンケートから見た町並み保存の現状と課題

町並保存部会では、景観まちづくりの現状や課題を把握するため、景観町並保存連合会を構成する保存会を対象にアンケートを実施しました。その結果をもとに、町並み保存の課題や今後の取り組みについて、部会で意見交換を行いました。

## ▶ 満足と課題が半々

実施したアンケートに対し、12の保存会から回答が寄せられ、現在の町並みの状況や今後の課題についてさまざまな意見が集まりました。地域の景観についての評価では、「良い」「どちらとも言えない」という回答が多く、町並みの魅力を感じている一方で、課題も感じているという結果となりました。



Q. 保存会が感じている町並み保存の主な課題は？（複数回答）



人口減少・高齢化、担い手不足など、「地域を支える人の減少」が大きな課題として挙げられました。

自由意見では、寺院群など高山ならではの景観を評価する声がある一方で、広告や看板、観光客増加に伴うごみ問題など、景観と暮らしの両面からの課題も挙げられました。

## ▶ アンケート結果を受けて 部会で議論

アンケート結果を踏まえ、令和7年12月17日 飛騨高山まちの博物館研修室にて、地域の現状や課題について意見交換を行いました。主なテーマは次のとおりです。

- 担い手と地域の将来について  
→ 町並み保存活動を支える人材の確保や、若い世代への継承について意見が交わされました。
- 防災と水の管理について  
→ 火災対策や用水の管理など、町並みを守るための防災の取り組みについて意見が出されました。
- 町並み景観を守る取り組みについて  
→ 建物の修景や町並みの統一感を保つための取り組みについて、各地区の事例が共有されました。
- まちづくりと地域の課題について  
→ 観光との関係や生活環境など、町並み保存と地域の暮らしのバランスについて幅広い意見が出されました。

## ▶ 町並み保存の課題

町並みの魅力を守りながら住民の暮らしと観光との調和をどのように図っていくか、また、地域のまちづくりを担う人材の確保と育成が今後の大きな課題であることが、改めて共有されました。

高山市景観町並保存連合会 子ども伝承部会 主催

# ご朱印めぐり（スタンプラリー）を開催

子どもたちに伝統的建造物群保存地区や景観保存区域の歴史や伝統文化を学んでもらおうと、平成25年から「ご朱印めぐり（スタンプラリー）」を開催しています。

10回目となる今回は、小学校4年生から6年生までの18名が参加し、下町（しもちょう）エリアを巡りました。

見学場所：  
村半・暎芳寺・日下部民藝館・鍵の手・高桑家住宅・高山祭屋台  
会館・櫻山八幡宮

日 時：  
令和7年10月18日（土）午後1時～4時30分

主 催：  
高山市景観町並保存連合会子ども伝承部会

共 催：  
公益社団法人岐阜県建築士会飛騨支部

後 援：  
高山市・高山市教育委員会

一般公開されていない「高桑家住宅」の見学や、防衛の工夫としてつくられた「鍵の手」の構造解説など、参加した子どもたちは町並みに残るさまざまな歴史や文化に触れました。

参加後のアンケートでは、「運動もできて歴史も知れてよかった」「高山の魅力を知ることができた」などの感想が寄せられました。

町並みの歴史や文化を身近に感じる機会となったようです。

## 「上町と下町 — 城下町高山の町のしくみ」

高山の城下町エリアは、宮川の流れに沿って「上町（かみちょう）」と「下町（しもちょう）」に分かれています。

川の上流にあたる南側が上町、下流にあたる北側が下町と呼ばれ、江戸時代にはそれぞれに町組（まちぐみ）が形成されました。町組とは、城下町で商人や職人が暮らす町人町の自治組織で、現在の町内会のような役割を担っていました。

もともと高山は金森氏によって城下町として整えられ、城の周辺や高台には武士の屋敷が置かれ、その周囲や街道沿いには商人や職人が暮らす町人町が広がりました。のちに高山は幕府直轄地（天領）となり、町人文化が大きく花開きます。

こうして形づくられた町の区分は、防火などの治安維持をはじめ、屋台組や祭文化、町並み保存などの形で、現在も地域の暮らしの中に受け継がれています。



写真① 暎芳寺で「飾り物」について学ぶ



写真② 日下部民藝館で建物の歴史を学ぶ様子



写真③ 櫻山八幡宮で説明を聞く子ども達

しもちょう  
下町発見  
ご朱印めぐり